



# きじむんの どう〜ちゃむばにい〜 第7回

## なかにし その名は仲西

キーワード：<sup>かたばる</sup>塩田潟原、<sup>しおわたりはし</sup>潮渡橋、沖縄県管内全図

はいさーい！きじむんやいびーん♪

今回は呼ぶと出てくると言われる、その名も「仲西」という妖怪を紹介するよ〜。

現代語：仲西やーい

### \*「仲西」についてはこんな情報があるよ\*

ナカニシ(仲西)：人の姓。晩方、那覇と泊の間にある塩田潟原の「潮渡橋」の付近で「仲西へーい」と呼ぶと出てくるといふ。(金城朝永「琉球妖怪変化種目(一)」、『郷土研究』5(2)、1931年)

### \*<sup>かたばる</sup>塩田潟原とは\*

若狭、泊、久茂地の間に広がっていた塩田のことだよ。右の地図は明治18(1885)年ごろの那覇市街を表したもののだけれど、確かにそのあたり一帯が「塩ハマ」と記されているね。

潟原の製塩業は、<sup>こうき</sup>康熙33(1694)年に<sup>しおはましこう</sup>塩浜芝香という人が始め、明治・大正期が全盛であったといわれているよ。潟原は製塩のほか、近代では運動会やプロペラ飛行機のお披露目飛行など、多彩な行事の場としても利用されていたんだって。

沖縄戦中から戦後にかけて、潟原は埋め立てられて、現在、跡地の一角に「泊塩田之跡碑」が建っているよ。



@前島中公園



阪巻・宝玲文庫 HW477 『沖縄県管内全図』(久米長順作製、1885年)

琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブより

### \*<sup>しおわたりはし</sup>潮渡橋\*

潟原は干潮時に徒歩で横断すると泊から若狭・那覇方面への近道になることから、人の往来の多いところでもあったよ。

「仲西」が現れるという潮渡橋は、潟原の上に明治42(1909)年に架けられた、長さ7間(約13m)の木橋だったとのこと(東恩納寛惇『南島風土記』、258頁)。

現在は国道58号線上、那覇市前島のリッチモンドホテルのそばにあるよ(ただし、位置は当時よりも南に移動)。

←潮渡橋(2015年9月19日執筆者撮影)



### \*現れるか!?仲西!?!\*

さてさて、現代でも「仲西」は現れるのかな?きじむんも潮渡橋の近くで「仲西へーい!!!」と呼んでみたけど…。去る者はあれど、近づいて来る人はいなかったよ。もし会えたら教えてね。でも、「仲西」に会うと神隠しにされるという説もあるから(比嘉春潮「沖縄本島の神隠し」『民族』1(2)、1926年1月)、気をつけてよ〜!(CY)

参考文献：真喜志駿編『泊前島町誌』、前島町誌刊行委員会、1991年

東恩納寛惇『南島風土記』、沖縄郷土文化研究会南島文化資料研究室、1974年(初版1950年)

那覇市企画部市史編集室編集・発行『那覇市史 資料編 第2巻中の7』、1979年

